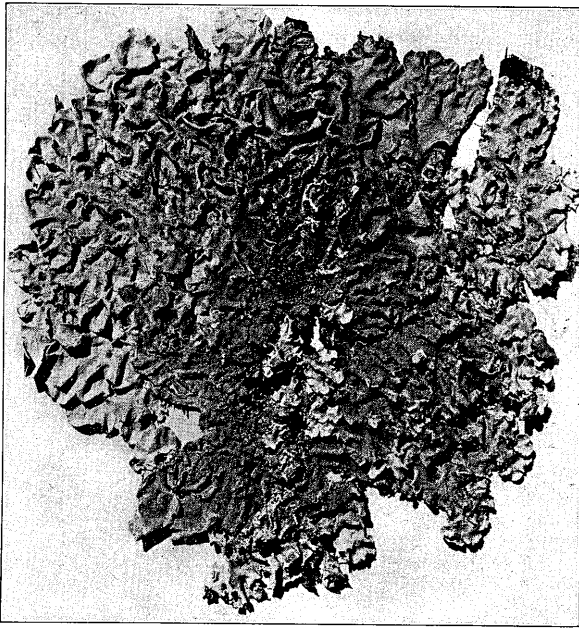


○蓄軒獨語(其四)

蓄軒 朝比奈泰彦

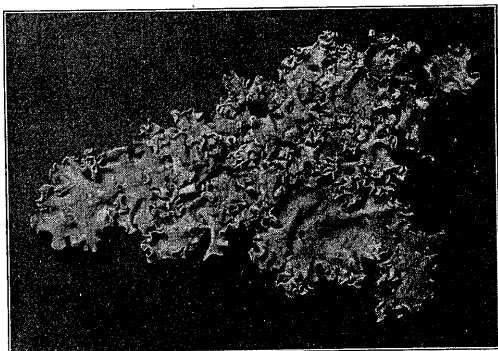
○ホンタウノウめのきごけ

今ヲ去ルコト七十年前獨逸ノ有名ナ地衣學者ケルベル(Koerber)ガ其著Systema



うめのきごけ (Parmelia praetervisa MUELL. ARG.)

Lichenum Germaniae ノ序文ニ其當時ノ彼地ノ植物學教科書ハ地衣ノコトハマルデ無關心デ可愛ソウニ孤立無援ノ Anaptychia ciliaris (げじげじごけノ類) ガイツモ引合ニ出サレテ多種多様ノ地衣群ノ代表者トナツテ居ルト慨歎シテ居ルガソレト全ク似ヨッタ状態ガ大正ノ今日世界ノ一等國ト自負スル吾日本ニ行ハレテ居ルコトハ果シテ慶スベキカ吊スベキカ、吾國デ地衣ノ代表者ノヨウニ取扱ハレテ居ルモノハうめのきごけデアルガ此地衣ハメツタニ子器ヲ着ケズ代表者トシテハ誠ニ不完全至極デアアル尙其上ニ邦語ノ植物書ノドレヲ見テモ其記載ヲタドリテソレト斷定シ得ルヨウナモノガナイノハ奇觀デアアル從テ各地ノ採集家ノ標本ガ往々うめのきごけトシテアツテ異ツタモノヤ又ハ二三種ノ地衣ノ混合デアッタリスルノハ甚ダ遺憾デアアルソレ故ココニ確實ナル記載ヲシテ見ヨウト思フ



なみがたうめのきごけ
 (Parmelia hyporysaea WAIN. var.
 cinerascens WAIN.)

うめのきごけハ水平ニ開展スル大形葉狀ノ地衣ニ屬シ其徑往々一尺ヲ超ユル圓形ノ輪廓ヲ有シ表面灰白色(地衣ノ色ハ別ニコトワリナケレバ常ニ乾燥時ヲ意味ス)ヲ呈シ瓣片ハ先端丸ル味ガアル邊緣ニハ纖毛ヲ缺キ縁ニ近キ表面ノ部分ハ平滑ナレドモ中央部ニハ細小ナル針芽(裂芽)ヲ簇生スルニヨリ粗慥デアアル或書ニ粉狀體(粉芽)ヲ有ストアルガコレハ大キナ間違デアアル

(針芽 Isidia トハ表面ノ組織ガ綠顆體ヲ含シテ輪狀又ハ枝狀ニ突起スルモノ) 粉芽 Soredia トハ表面ノ組織破壊シ綠顆體ト菌絲ガ粉末狀ヲナシ裸出セルモノ)

裏面ハ邊緣ニ近ク褐色ニシテ全ク平滑、中央ニ向フニ從テ濃褐色乃至黑色トナリ毛根ハ數本ヅ、集合シ處々ニ散生スル、皮層ノ表面ニ「アルカリ」液ヲ點ズレバ淡黄色ヲ呈スルモ髓層ハ呈色セヌ之ニ反シ漂白粉液ニヨリテ皮層ハ無色ナルニ髓層ハ血赤色ヲ呈スル、平滑ナル葉狀體ノ縱斷面ヲ鏡檢スルニ皮層ハ地衣體ノ厚サノ十分一内外ニシテ綠顆層ヲ越エテ發育シタル菌絲ノ末端ガ略ボ圓形ニフクレタルモノ、集合固着セルモノヨリ成ル從テ擬柔組織様ヲナサヌスミス女史ノ分類ニ從ヘバ decomposed cortex ノ部ニ屬スル、裏面ノ皮層ハ褐色ノ皮膜ヲ有スル菌絲ヨリ成リ多少擬柔組織様ヲナスコトガアル綠顆體ハ原球藻ニ屬シ約球形ニシテ最大ナルモノハ其徑ガ十μニ及ンデ居ル子器ハ稀ナルモ海岸地方ニ産スルモノハ往々之ヲ生ズル、徑一 cm ニ至ル盃狀ヲナシ短柄ヲ有シ盤ハ赤褐色デ邊緣ハ屈曲スル、線狀體ハ單一ニシテ分枝セズ子囊ハ橢圓形デ八子ヲ入レ胞子ハ長橢圓形ニシテ無色單室、油

かうしゅうやく(衡州烏藥)ノ材ノ組織

滴ヲ含ム大サ平均 18×17 デアル

うめのきごけノ學名ハ *Parmelia praetervisia* Mill. Arg. トシテ吾國デハ通用シテ居ルガ *Parmelia tinctorum* Despr. ト少シモ異ツタ所ガナイノデ前者ハ異名トシテ置ク程度ノモノデアロウ、うめのきごけニヨク似テコトト混同サン易キモノニなみがたうめのきごけ(新稱)ナルモノガアル、コノ地衣ハ歐洲ニ産スル *Parmelia olivaria* (Ach.) Hufe. (*P. olivetorum* Nyl.) ニヨク似テ居ルガ表面ニ白點ガナイノデ區別サル又うめのきごけトハ表面ニ針芽ヲ全ク缺如シテ居リ波狀ニ屈曲セル邊緣ニ粉芽ヲ有スルノデ區別サル「アルカリ」液並ニ漂白粉溶液ニ對スル反應ハうめのきごけト全ク同一デ此なみがたうめのきごけノ學名ハ *Parmelia hypopyralia* Wain. var. *cinerascens* Wain. デアル(植物學雜誌第四百十一號歐文欄第四十七頁參照)

○かうしゅうやく(衡州烏藥)ノ材ノ組織

藥學士 藤 田 直 市

かうしゅうやく (*Cocculus laurifolius* DC.)



T. Makino deliniat.

本來烏藥ト云フ漢藥ハ昔時健胃藥トシ或ハ中風ニ用ヒ又霍亂ヲ治スルニ用タモノデアアルガ其確實ナル効力ハ本日デハ今一度ヤリ直シテ研究シテ見ネバ分ラナイノデアアル、此烏藥ハ普通ハ天台烏藥ト云フモノデ樟科ノ植物 *Lindera strichnifolia* Vahl. ノ根デアル、其根ノ膨脹シテさつ々芋ノ如キヲ括樣ト云ヒ圓擲形ノ品ハ榛樣ト稱シ劣等品トシテアル本草綱目啓蒙ニ「享保年中漢種二品渡ル天台烏藥ト衡州烏藥トナリ傳へ裁テ今花戸ニ多シ云々」トアリ又日用藥品考(文化七年)ニ「天台烏藥、衡州烏藥ノ